



じょうきょうじ
浄敬寺だより

発行日 令和四年一月一日 第三十八号



年末法話会



三条別院報恩講



お盆お朝事



松の剪定



秋彼岸



【法語】

人在世間 愛欲之中、獨生獨死 獨去獨來、
當行至趣 苦樂之地。身自當之、無有代者。

『仏説無量壽經 卷下』真宗聖典五九〇六〇項

ひと、世間の愛欲の中なかにありて、ひとり生しょうじひとり死しし
ひとり去きりひとり来きたりて、行ぎように当あたり苦樂くらくの地ちに至いたり趣おもむくく。
身み、自みずからこれうを当たれくるに、有もも代かわる者ものなし。

【解説】

「〇〇をしたい」「△△のようになりたい」「認められたい」
等々：私たちは愛欲や執着から起こる様々な問題を抱えながら
生活しています。理想を抱くことも大事ではありますが、もし
思ったように叶わなければ悩むこともあるでしょう。

仏教では、生まれた以上、老いることも心身を病むことも死
んでいくことも、この身に具わった事実だと説かれます。そし
て、すべての出来事において、最終的には「自分」が「独り」
で受け入れていかねばなりません。私の人生は、決して代役の
きかない人生であることを教えてくださっている言葉です。

「独り生まれ独り死し：代わる者なし」は厳しいでしょうか？
しかし、この事実を誤魔化したままで、限りある一生を生きき
ることは難しいのです。事実が事実として受け止めることで、
これからの新たな歩みが始まります。

昨年も新型コロナウイルスの影響で社会生活に様々な変化が起きました。そしてその変化が常態化するのではないかという危惧も感じています。ご門徒の葬儀や御法事でもお斎が無いというのがほとんどになってしまい、お斎の席で亡き方を偲ぶという機会が無くなってしまいました。目に見えないウイルスの影響でこれほど社会が変わってしまうとは驚くしかありません。幸い、最近感染者数も減ってきているようですので、元に戻せることは是非とも戻していきたいものです。それには大きな決断と力がある意味では楽になってしまったからです。私は昔からスポーツと言えればソフトテニスしかやらず、今でもゴルフはやりませんが、友人の多くはゴルフを楽しんでいます。ゴルフというスポーツはとても奥が深いようで、なかなか上達しないという友人の話も聞いて、止まっているボールを打つのがどうしてそんなに難しいのか尋ねたことがあります。答えは止まっているボールだから難しいのだという至極当然の話でした。考えてみると社会生活のほとんどのごことは昔から当然のことのように続けられ動いてきたことだったと思います。それが一定期間止ま

ってしまおうと、それを再び動かすというのは今までの倍以上の力が要るように思います。人間の生活も昔と比べれば全てが便利になりました。人間の手を煩わせず機械がやってくれることも多くなりました。しかしその中でも私たちが大切に守ってきたことも多くあったはずで、人と人との絆などはその最たるものだったのではないのでしょうか。現在、それさえも失われかけています。家族葬というコロナ禍で顕著になった葬儀の形もその大きな理由の一つだと思います。ある方が、「最近、町内で亡くなった方がいても連絡も来ない」と嘆いておられました。年末にいたただく年賀欠礼のはがきで知人の死を知り驚いたという方も多いのではないのでしょうか。商業主義に流されて肥大化したそれまでの葬儀の在り方は反省するにしても、人間の一生の最後に遇うことさえ許されない葬儀の形は、やはり一考の必要があるように思います。この二年間、お寺の各行事のやり方も変えざるを得ないことが多々ありましたが、その一番大きなことはお斎（とき）が出せなかったことだと思えます。丸二年間、お斎が出せないというのは、浄敬寺の長い歴史でも初めてだったのではないのでしょうか。確かにお斎を出さずに外注のお料理を持ち帰っていたかどうかというやり方は一面楽ではありますが、それはお寺の機能の一つを放棄しているような

気持ちもしています。今後のコロナの状況にもよりますが、春のお彼岸には是非復活させたいと願っています。蓮如上人御一代記聞書に「神にも、馴れては、手ですべきことを足でするぞ」とあります。少々事情が違うとは言え、自分の心の中にそういう一面が無いとは言えません。今春四月十日（日）には、一昨年延期になった十組親鸞聖人七百五十回御遠忌も勤まります。新しい年を迎え、心新たに歩み出したいと思っておりますので、皆様にはご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

合掌

（住職）



『浄敬寺境内』
画・深田ゆかりさん
(晴香友人)

☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎境内にそびえ立つ樹齢四、五百年といわれる大きな黒松は、昨年の大雪と大風で沢山の枝が折れたり、枯れ枝のまま残ってしまった。そこで大規模な枝おろし剪定をしていただきました。ここで生まれ育った住職も初めて経験した作業だったそうです。悠々とした黒松と大櫓は浄敬寺のシンボルとして守っていききたいと思っています。

◎久し振りにすり鉢を出し、胡麻を擦って味噌と砂糖を加え、よく練ってキャベツの胡麻和えを作りました。シンプルなお齋の味です。たくわん漬けも出来ましたし、今年こそ・・・お齋の再開を願っています。

◎今年の夏の法話会のご講師は、三条別院での音楽法要の仏教讃歌の指導をされておられる白鳥道子氏です。私も二十数年前からご門徒さんと一緒に参加させていただいています。また、十組の同朋会報恩講でも歌い続けていますが、讃歌に込められた深い願いをお聞きしましょう。ご参加をお待ちしています。



◎娘の千晶は十月二十一日、アルフォーレでの「綾子舞物語」に出演し、無事大役を務めることができました。応援していただいた皆様に感謝申し上げます。

☆二〇二一年前半を振り返って

◎秋彼岸（お中日・九月二十三日）法話 住職

新潟県の緊急事態宣言が発令され、二週間の自粛期間を経てお勤めしたお彼岸でした。おときをお持ち帰りにさせていただきましたが、再会を喜びながらお勤めすることができました。左記、法話要旨です。

仏教は生死に迷う此の世の中から、彼の世界、彼岸に到達する道を教えています。間違えても間違えても、迷っても迷っても、決して見捨てることなく、気付いてくれよ、気付いてくれよと願われています。自らの愚かさ知らされるという事は、本当の世界、迷いのない世界に目が開かれること無しにはあり得ません。即ち、自らが愚かであったと知らされた時、その時すでに真実の世界に目が開かれています。

◎三条別院報恩講参拝（十一月八日）

三条別院報恩講に一行六名で参加しました。十組の会報「衆会」に様子が載っていますのでご覧ください。昨年は教区内での内勤め、団体参拝も募集がありませんでしたが、二〇二一年度の報恩講は、本山から御鍵役の御参修もあり、毎年に近い形でのお勤めでした。

◎有縁講（十一月十七、十八日）

有縁講に今年は五名で参加しました。途中、池の平のいもり池付近にある東本願寺青少年センターに寄ってお参り・見学して赤倉ホテルに。翌日は恒例のりんご狩り、その後須坂市の豪商の館田中本家を見学、本願寺派の普願寺様を参拝して帰りました。



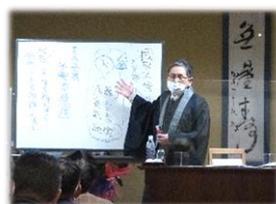
◎年末法話会（十二月十二日）法話 田澤一明師

この一年を振り返り、我が身の在り方を考えるきっかけとして、お聞きいただきたいと思っています。多くの方々からご参加いただきありがとうございます。左記、法話要旨です。

『摂取不捨の利益』

せつしゆふしや りやく

「利益（りやく）」という言葉の前にしますと、日常の感覚では「りえき」と読み、何か得をすることを考えてしまいます。一般的には神仏に「商売繁盛」、「無病息災」、「家内安全」を願うことで三つの利益「富・健康・平和」を得ることを思われています。親鸞聖人が疑問に思われたことは二つありました。一つはその「三つの利益を得ることで本当に人間は満足するのだろうか？」です。二つには「本当に人が満足するものがあるのか？」という問いでした。



親鸞聖人は経典から、我々が望む「三つの利益」が思い通りになった状態である「天人」でさえ苦しみから逃れられないことを紐解きます。では、どうしたら人は満足するのか？その応えが比叡山にはないと思ひ、聖徳太子ゆかりの六角堂に籠るのでした。そして、その時の夢告に従い法然上人を訪ねたのでした。

法然上人の教えとは阿弥陀如来により、どこまでも満足できない人間が本願「えらばず・きらわず・みすてず」のおこころ「摂取不捨」で受け止められ、それが願われる場が「お浄土」であります。そして、そんな阿弥陀如来の願ひとは、ただ「念仏申すこと」一つだったのです。阿弥陀如来は「孤児独老」どこにも依る処のない孤独な人間に、お念仏をさせて常により添うと願われたのです。お念仏することが私たちの救いでもあるのです。

念仏申す事、それが「摂取不捨の利益」であると教えいただきました。

☆四月十日（日） 厳修ごんしゅう

『三条教区第十組宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌』ごえんき

について

清香のこら
ちよつご
解説&案内

二〇二〇年に厳修予定だった十組御遠忌法要。新型コロナウイルス感染症の影響で二年延期になっておりましたが、いよいよ四月十日に厳修予定です。

当初の予定よりは規模が縮小となり、密を避けることが難しい稚児行列やお買い物広場は中止となりますが、法要の要となる帰敬式・ご法話・お勤めは予定通りに行われます。柏崎刈羽の寺院・門徒で勤める御遠忌法要ですので、ぜひお参りください。

☆法要と記念講演：入場券千円、記念品引換券千円です。

【法要】必ず二枚セットでお求めください。

本山より御鍵役に御参修（*）いただき、伝統声明でお勤めします。また、開会式では仏教讃歌も披露します。

*御参修とは

親鸞聖人御真影の御厨子の鍵を管理するお役目を担う方々を御鍵役とお呼びし、親鸞聖人の子孫・大谷家の縁戚関係にあたる方々が従事されています。法要に御鍵役をお迎えし、御導師をお願いする場合に御参修といたします。

【記念講演】

大谷大学名誉教授の延塚知道先生による記念講演です。

清香の大谷大学在学中のゼミの指導教諭です。延塚先生のお話をぜひ多くの方に聴講していただきたいです。

☆帰敬式（おかみそり） 受式のおすすめ

午前十一時半からは、本山御鍵役により帰敬式が執行されます。

帰敬式は仏弟子の名のりである法名をいただく儀式です。法名は生前にいただき、仏弟子として人生を歩みたいものです。ご希望の方はお知らせください。



☆准坊守の浄敬寺潜入レポート第五回【浄敬寺の大松】

浄敬寺の年中行事や境内地で目に触れる色々なこと・ものを、准坊守の清香目線でお知らせする『お寺潜入レポート』。昨年十月に、境内の中央にそびえ立つ大きな松の木を剪定していただきました。樹齢が四百〜五百年と推測される松の剪定の様子をお知らせします。



クレーン車にて作業



近くで見ると枝は思った以上の太さ・大きさ



☆書籍紹介コーナー

『子どもと読みたい』

ほとけさまのおはなし』

ちよつごら
おススメ

おすすめポイント

二十四人の作者により、短めの文章で仏教・真宗の大事なポイントを記されています。子どもに伝えることが前提ですので、やさしく平易な言葉であるのは勿論、教える要を丁寧に書き記しており、世代問わずお勧めです。

コラムには親鸞聖人と東本願寺のこと、真宗門徒の基礎知識も掲載されていますので、ぜひご覧ください。



☆二〇二二前半の行事予定

一月一日 修正会勤行 朝六時より
 一月一～二日 年始参



*真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

一月十五日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

二月十二日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

三月十二日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

三月十八～二十四日 春彼岸

お中日 二十一日(春分の日)

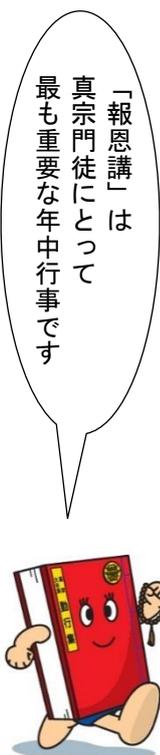
午前十時半～法話・勤行後・おとき

四月十日(日) 十組御遠忌法要 於アルフォーレ

*二年延期になりましたが、規模縮小にて厳修予定です
 別途ご案内いたしますのでご予定ください

五月七日(土) 浄敬寺報恩講準備会 午後一時～

*仏具のお磨き境内清掃を行います
 ご参加いただける方はよろしくお願いいたします



「報恩講」は
 真宗門徒にとって
 最も重要な年中行事です

五月十九日(木) 報恩講お引き上げ 午前十時～

法話 今泉温資師
 引き続き 勤行・おとき

六月十一日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時～

六月二十六日(日) 夏の法話会 午後一時半～

講師 白鳥道子氏(三条市本龍寺坊守)

七月十四日(木) 盆参会(盆内) 両日とも十時半～

十五日(金) 法話・勤行・おときがあります

八月七日(日) 夏休み子どもの集い 午後四時～

八月十三日～十六日 孟蘭盆会(お盆)

十三日・・・午前六時より 本堂にて勤行

帰敬式のご案内(今年度二回受式のチャンスがあります)

①十組御遠忌法要 柏崎市アルフォーレにて

真宗本廟(東本願寺) 御鍵役・信悟院殿により執行

②慶讃法要お待ち受け大会 三条別院にて

真宗本廟(東本願寺) 御新門により執行

*受式をお考えの方はお気軽にご相談ください。

*行事にご参加の際は

浄敬寺で開催の行事においては、申し込みは不要です。
 当日の開始時間を目指してお越しください。
 引き続き、マスク着用と手指消毒をお願いします。

☆晴香の『真宗門徒のマメ知識』

『お包みの袋と表書き』 関して…

ちよつぷ
解説



新年のお年始の粗品に白い封筒をお届けさせていただきます。以前（浄敬寺だより二十一号）にも取り上げたテーマですが、補足もありますので、再度解説します。

☆お年始でお届けした封筒タイプのもの

この度は簡易的な白い封筒をお届けしました。一般的には水引のついたものを選ぶことも多いかと思いますが、真宗門徒は本来水引や熨斗付きの袋は使わず、左記のような糊入紙（和紙）を用います。

☆真宗門徒の祝儀袋・不祝儀袋

既に折られた形の物（糊入れ紙）を購入できますが、一枚の紙から折ることもでき、仏事であれば、慶事でも弔事でも使用できます。（慶事も弔事も同じ向きで使用）

☆水引ありタイプを使う場合

①赤白（熨斗なし）

・御移徒（おわたませ）

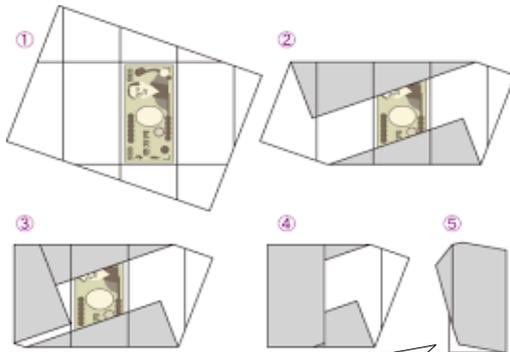
・家の新築やお内仏を新調した際に行う法要。

・年忌法要

・三十三回忌・五十回忌など大きな節目の際。

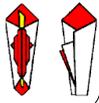
・報恩講

宗祖親鸞聖人御命日のお勤め。私にまで届けてくださった御恩に感謝の意味を込めて赤白で包みます。



出来上がったとき、三角形に欠ける部分が左側上下にきます

この飾りが熨斗
基本的に仏事には
用いせん

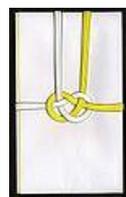


②黒銀または黒白

葬儀・中陰の間に用いられ、水引は結び切りです。市販の不祝儀には様々な物があり、一般には「お花料」はキリスト教徒、「御霊前」は神道・一部仏教徒の書き方と言われることがありますが、真宗門徒は「御香資」「御香典」「御仏前」等々を用います。葬儀に会葬する皆さんで、お葬儀を荘厳する為のお香やお華を負担し合う…という意味からも、「御香資」をお勧めします。

③黄白（地方限定カラー）

新潟・北陸・関西の地方限定とも言われる黄白。葬儀の後、満中陰を迎えると、黒白は用いませんで、この黄白が使われます。仏事において色々使える便利なカラーとも言えます。



- ・使用例は
年忌法要
満中陰を終えた後、百箇日法要から
年中行事
盆参会、彼岸会、お講などにも使用されることが多いです。

☆表書きの違い

一般常識という観点であれば、インターネットや書籍で簡単に検索できる昨今ですが真宗門徒の視点で、使用例をお知らせします。

・御仏前・御本尊様…お葬儀やご法事で御本尊様をお迎えしたとき
また、お寺の御本尊様をお参りする際

・御布施…法事・月参り等、仏事のお礼

・御香資（御香典）…通夜・葬儀の会葬、年忌法事に参列する際

・お年始・盆礼…お年始・お盆のお寺へのお参りの際

・御礼…説法や会場使用に對してのお礼

法話講師へのお礼には「法礼」と記します

・御明（お明かし・御明志）…お参りの際に

・志…どこにも該当しなかった場合

右の表書きが全てではありませんので、その他にも「こんな時は？」という事例がありましたら、お尋ねください。



最近、子どもたちが「マイクラフト」というゲームに熱中しています。長男の説明では、風景や建物を作ることができ、襲ってくるゾンビと戦うもよし、逃げるもよしで、かなり自由度の高いゲームなのだそうです。そのマイクラフトを遊び始めて一か月くらいたった後、長男が興奮してゲームを見て欲しいと言ってきました。何でも、ダイヤモンド製の最強の武器と防具を作ったそうです。弟たちはそれを羨ましそうに見ていました。ダイヤモンドが地球上で最も固く、それ故、何でも砕くことができることを子どもたちも認知しているようです。その固い物質であるダイヤモンドですが、仏教でも「金剛」という言葉で表現されています。

親鸞聖人は、阿弥陀様の人間を救うおところは固く崩れることがない「金剛心」と云っています。またダイヤモンドの固くどんなものでも砕くことができるという性質については、どんなに頑なな人間のこころも砕くことができる」と説明しています。そして、砕いた人間のこころを「柔軟心」で包み込むそうです。そんな阿弥陀様のおこころを親鸞聖人は大変尊ばれました。そして、金剛心で砕かれ、柔軟心に包まれた人間の声として発せられるのが「お念仏」なのです。

(当 院)



☆編集を終えて

新年のご挨拶の粗品に、仏事に使用する白い封筒をお配りさせていただくことになり、十年ほど前に記した内容をリニューアルして「ちよっころ解説」をさせていただきます。浄敬寺の御門徒で、お盆と年始のお参りに寄せていただきたくと、表書きに『御回向御礼』と記してくださるご家庭があります。先代から引き継がれての事だそうです。この表書きを拝見するたびに、身が引き締まる思いです。私たちが御本尊の前に座らせていただくとき、その私たちには既に如来の願いがかけられていて、そこに応えて念仏申して生きてこられた先人の思いや歴史があるのだと思わされます。書面の都合で詳細の理由や背景までは書ききれませんでした。ご不明な点があれば、ぜひお気軽にお尋ねください。

(晴 香)

☆連絡先

浄敬寺 TEL:0257-22-2481
 Fax:0257-22-2140
 住職 Tomi814@kismet.or.jp
 当院 minipapa@kismet.or.jp
 晴香 haru310@kismet.or.jp

